

新しい学びの形を提案する『なら歴史芸術文化村』が開村 ～歴史や芸術がつなく奈良の魅力発信の拠点が誕生～

2022年3月21日、歴史、芸術、食と農など奈良県の誇る文化に触れることができる施設として『なら歴史芸術文化村』が開村した。日本初となる文化財4分野（仏像等彫刻、絵画・書跡等、歴史的建造物、考古遺物）の修復作業現場の通年公開や、国内外のアーティストの制作過程を見学し交流できるなど、対話や体験を通じて学びを深める「双方向プログラム」が注目されている。

1. 対話、体験を重視した新しい学びの形を提案

文化や芸術の振興を図るための新たな拠点として、県が2014年（平成26年）より検討を進めてきた『なら歴史芸術文化村』が2022年3月21日



幾坂池から臨む同施設

開村した。同施設の周辺には、山の辺の道や東・西乗鞍古墳など歴史文化を学べる自然環境が

整っており、周辺地域を一体とした地域の賑わいづくりの拠点としても期待されている。総事業費100億円をかけた同施設は、4つの棟と宿泊施設を備えた道の駅として県内で16番目に登録され、日本初となる4つの分野の文化財修復作業現場の通年公開や来村者とアーティストとの交流など、ここでしか体験できない取組みを数多く提供している。

2. 各棟の施設について

（1）文化財修復・展示棟～過去と未来をつなぐ～
○歴史的建造物修復工房、考古遺物修復工房

1階入り口を入ってすぐの場所にあり、ガラス越しに歴史的建造物や考古遺物の修復作業を行う様子を見学できる。神社の本殿など大きな建造物の修復作業では、当時の材料や工法にできるだけ近づけて修復作業をする様子が公開されてい



歴史的建造物修復工房、考古遺物修復工房

る。また、実際に道具を使って体験するワークショップなども企画され、その際には工房に入ることも可能になる。

○仏像等彫刻修復工房、絵画・書跡等修復工房

地下1階にあり、仏像を中心とした木造彫刻の修理と掛軸や屏風などの絵画や古文書の他、「装潢文化財」の修理を行っている。学芸員による文化財や修理に関する説明を受けながら、より近くで修復作業を見学できるツアーが毎日行われる。

○展示室

県内の歴史・文化や文化財修理をテーマにした展示や文化財に親しむ体験型の展示が行われる。実際に出土遺物や文化財のレプリカに触れることができるハンズオン企画など年5～6回の企画展を開催する。

●現在修理中の主な文化財

【建造物修復工房】

多坐弥志理都比古神社本殿

【考古遺物修復工房】

前栽遺跡、平等坊・岩室遺跡出土品

【絵画・書跡等修復工房】

當麻寺奥院蔵・當麻曼荼羅図、榮山寺蔵・榮山寺文書、南法華寺（壺阪寺）蔵・両界曼荼羅図

【仏像等彫刻修復工房】

東南院蔵・大日如来像、光堂寺蔵・四天王像、十輪院蔵・多宝塔

○デジタルギャラリー

設置されているパソコンで、県内の有形、無形文化財に関する動画アーカイブや、県が所蔵する建造物の図面等のデータベースを自由に閲覧することができる。

（2）芸術文化体験棟～アートでつながる～

○体験学習室「そざいきち」

イタリアの幼児教育法レッジョ・エミリア・アプローチ法*を参考に「創造」と「共同」を育み、一人ひとりの発想と個性を尊重する幼児向けアー

トプログラムを行う。

未就学児を対象に和紙や墨などの奈良ゆかりの素材の他、葉っぱなど身近な自然の素材を使ったアート体験を企画する。体験を通して子どもたちが自由な発想で遊びを楽しみ、創る過程で生まれる疑問や発見を大切にすることを目的としている。

※1950年代前半にイタリア北部の町レッジョ・エミリアで生まれた幼児教育。ゴールを想定せず、子どもたち一人ひとりの好奇心に沿った柔軟な学びを重視する教育法。

○アーティスト誘致交流プログラム

各スタジオに国内外のアーティストが滞在し、作品の制作過程を公開することで、来村者との交流を図る。また、奈良にゆかりのあるアーティストを招きワークショップやギャラリートークを行うなど、交流を通してアートの楽しみを広げるプログラムなども予定されている。フロアの中央には交流ラウンジがあり、アーティストによる公開制作や、ワークショップ、鑑賞会を行う場として利用される。広いテラスからは、幾坂池を臨み、春には土手に植えられた大きなソメイヨシノが見事な花を咲かせる。

○音楽・伝統芸能体験プログラム

座席数 272

席（可動式）

あるホールでは、コンサートや雅楽・能楽など伝統文化の体験プログラムなどが開催される。



ホール

（3）交流にぎわい棟～地域と人がつながる～

毎日新鮮な奈良県産の農産物や加工食品が並ぶ直売所があり、地元食材を使ったレストランも出店している。また、奈良晒や吉野杉の加工品、赤



農産物直売所と伝統工芸品ショップ

膚焼など奈良の伝統工芸品も数多く販売され、訪れる人の目を楽しませてくれる。2階には、

子どもも使えるよう高さを調節できる実習室や多目的室があり、食と農について学ぶ講座やイベントが開催される。また建物1階奥には、シャワー室を備えたサイクルステーションが完備されており、サイクリストにとっても快適な環境が整っている。

（4）情報発信棟～周辺地域へつながる～

コンシェルジュが常駐し、観光案内や施設案内を行う。また道路情報に加えて、県内全域の歴史文化資源や観光などの情報を発信する。

棟内のトイレ、授乳室は24時間利用が可能で、周辺の「山の辺の道」を散策する際の拠点として活用することもできる。



情報発信棟

3. “『なぜ？』が芽生える。『知る』を楽しむ”

同施設は、村のコンセプトである“『なぜ？』が芽生える。『知る』を楽しむ。”に基づき、来村者が文化財やアート作品を観たり、ワークショップなどを体験したりする中で生まれる疑問『なぜ？』を大切にし、学芸員やアーティストとの対話を通して本物に触れ、体験することで生まれる新たな視点や感性を『知る』楽しさを探求する新しい学びの形を提案している。

三原耕治村長は、「奈良の歴史・芸術・文化を五感で感じ、対話や体験を通して気づきを広げ、新しいことを知る楽しさへとつなげてほしい」と語る。（村井 渚）

- ・所在地…奈良県天理市^{そまのうち}内町 437-3
- ・開館時間…9時～17時
レストランと貸館は9時～20時
情報発信棟トイレと授乳室は24時間
- ・休館日…月曜日（月曜日が休日の場合は翌平日が休館、レストランは営業）
- ・入館料…無料（別途料金が必要なイベントもあり）
- ・アクセス…JR・近鉄天理駅よりシャトルバス運行
（片道大人：260円 小児：130円）
- ・問い合わせ先…0743-86-4420（代表）
- ・<https://www3.pref.nara.jp/bunkamura/>